

【報道関係各位】



悲劇の最強戦艦、戦後60年の今甦る！

『週刊 戦艦大和を作る』

2005年9月6日(火)創刊

株式会社デアゴスティーニ・ジャパン

株式会社デアゴスティーニ・ジャパン(本社:東京都中央区、社長:大谷秀之)は、幻の名艦“戦艦大和”の250分の1スケールの模型が出来上がるパーツと、大和の様々な情報が詰まった雑誌がセットになったクラフトマガジン『週刊 戦艦大和を作る』(全90号予定、創刊号特別定価590円/税込、2号以降通常定価1,190円/税込)を2005年9月6日(火)より全国書店(一部地域を除く)にて発売開始いたします。なお、創刊時には2週間にわたり2000GRP規模のテレビ宣伝を行います。

あの巨大戦艦の勇姿があなたの手でよみがえる!!

『週刊 戦艦大和を作る』は、2002年に発売し、日本の船舶模型ファンの熱烈な支持を得た『週刊セーリングシップ』の好評を受け、さらに精巧で日本人魂をくすぐる模型を作りたいという帆船ファンのご要望から生まれました。毎号付いてくる木製パーツ・金属パーツを組み立てると、世界最大最強の不沈艦といわれ無敵の日本海軍の象徴であった“戦艦大和”(1/250スケール)が完成いたします。出来上がる“大和”は、悲劇的な最後を迎えることになる沖縄戦に出撃した際の最終艦装(装備)をモデルにしています。全長は105.2cmにもなる本格的な大型船舶模型で、重厚な仕上がりのポイントとなる金属パーツもふんだんに使用しているため、高級感あふれる迫力の仕上がりです。圧倒的な破壊力を持つ主砲:46cm砲から当時の最新技術の粋を集めたといわれる装備まで、細部に至るまで忠実に再現した巨大戦艦は、船舶模型ファン、またミリタリーファン垂涎の逸品です。

本誌は、模型制作のための“ステップ・バイ・ステップ”と、大和をさまざまな角度から解説する3つの章で構成。

ステップバイステップでは、写真を図版をふんだんに使用し、本格的な模型制作も、初心者でもわかりやすく説明します。さらに改造方法や難易度の高いテクニックも随時収録しており、上級者の方々にも充分にごたえのある内容となっています。

本誌では、“大和のすべて”、“近代海戦”、“世界の軍艦”の3章から構成。極秘の新兵器として誕生してから、時代の変化についていけず、活躍の場がないまま沈没する大和の軌跡を詳しく解説します。当時の最先端技術の粋といわれた大和のメカニズム、時代背景を、当時の写真やイラスト、最新の研究資料によって多角的に分析します。さらに、歴史に名を残す海戦や勝敗の行方を決定づけた海戦をその作戦や戦略を踏まえて結果までを解説するほか、同時代に活躍した各国の旗艦から数奇な運命をたどった戦艦までを、埋もれたエピソードをまじえながら紹介します。本誌を揃え、別売り(通常価格1,290円/税込)のバインダーに綴じれば、近世海戦史から歴代の名艦までを網羅したオリジナル軍艦百科が完成いたします。

悲劇の特攻から60年。大和の存在が平和を広げる

1945年4月6日、1億総特攻の先駆けとして戦艦大和は出撃。翌7日に沈没してから今年で60年目にあたります。今年4月23日には、「大和は激動の近現代史を体現した存在。平和や科学技術の素晴らしさを感じて欲しい」という呉市長の言葉から、広島で大和ミュージアムが開館しました。当初目標をはるかに上回るペースで12日目

にして来場者 10 万人を突破する人気を見せております。また、今年 12 月には、映画『男たちの大和』が全国東映系で公開します。節目の年を迎えて「日本が戦争をしないため、平和を守るためには何が必要か。それを考えるきっかけ」として作られたそうです。“日本海軍の象徴であった大和”が“平和を考えるツールとしての大和”として戦後 60 年の今年、様々な形で再現されています。この平和の歩調の一翼を担うべく、デアゴスティーニは『週刊 戦艦大和を作る』を発売いたします。商品概要は次頁のとおりです。

【商品概要】



タイトル	『週刊 戦艦大和を作る』
価格	創刊号特別価格 590 円(税込) 2号以降 1,190 円(税込)
創刊日	2005 年 9 月 6 日(火)
刊行形態	毎週火曜日発売
刊行号数	全 90 号を予定
判型	A4 変型判
バインダー	創刊時特価 690 円(通常価格 1,290 円)

【戦艦大和詳細】



250 分の 1 スケール
全長 105.2m



金属パーツの艦装は実物さながらの重厚感



船体は木製パーツ、艦橋や砲塔部分は金属を使用。木製パーツはコンピューターと連動したレーザーカットによって精密に加工。

【本誌】

『週刊 戦艦大和を作る』は毎号 4 つのテーマで構成されています。

【大和の全て】

戦艦大和のさまざまな情報を紹介します。史上最大の 46 センチ砲、速力を増すために考えられた球状船首などのメカニズムや戦歴、大和や海軍に関するテーマを取り上げるコラムなどで巨大戦艦大和の実像を掘り起こします。



